

社会

◆大設問ごとの内容と結果◆

大設問	主な出題内容	設問数	配点	受検者平均点	受検者得点率(%)
問1	世界の地理	5	15	8.59	57.24
問2	日本の地理	5	14	8.52	60.84
問3	江戸時代までの歴史	5	14	7.61	54.34
問4	明治時代以降の歴史	5	15	7.43	49.50
問5	政治、経済	5	15	8.63	57.56
問6	政治、現代社会、国際社会	5	14	6.88	49.11
問7	地理・歴史・公民の融合	4	13	6.15	47.28
		34	100	53.79	—

(「令和6年度神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果」より作成)

(参考：合格者平均点54.8)

◆概要◆

昨年度と同じく大設問7題の構成です。問題の総ページ数も14ページのままでしたが、小設問数(採点単位)は34題で、昨年より1題増えました。各分野の配点([] 内は昨年度)は、地理分野が32点[31点]、歴史分野が28点[36点]、公民分野が40点[33点]でした。中学校3年間で各分野に配当された単位数と配点を比較すると、公民分野が多くなっており、とくに中学校3年の後半で学習した経済や国際関係が増えました。

すべての出題がマークシート解答形式になっている点は、過去2年と同じです。また、2021年は平均点が70点を超えましたが、その後は年々平均点が下がり、今年は昨年よりもさらに平均点が下がったようです。単純に用語(知識)を問う出題は少なく、単なる暗記でなく正しい理解を前提としていること、複数の資料や問題文を読解して情報を処理し、それらを活用して正解する問題であることは変わりません。

◆大設問ごとの出題傾向と難度◆

- 問1：例年どおり略地図をリードとする形式でした。(イ)時差を求める出題は2020年以来ですが、時差と経度について正しく理解していれば、難しくはありませんでした。(オ)正解である「オーストラリアが、APECの結成を主導した」ということを知らない受験生は多いでしょう。同国がアジア州との結びつきを強めているという文脈とAPEC(アジア太平洋経済協力)の意味から推測する必要がありました。
- 問2：例年どおり資料や地形図にもとづく出題で構成されていました。(ア)日本の都市の雨温図を読み取る出題は2020年以来でしたが、比較的オーソドックスでした。(ウ)地形図を読み取って断面図を選ぶ出題は2017年以来です。慣れていけば難しくない問題でした。(オ)県入試に頻出の統計資料から必要な数値を見つけて計算する出題ですが、同時に歴史的な知識も必要とする難しい問題でした。
- 問3：2022年以降は年表を主なリードとしていましたが、資料を含むレポートをリードとする形式に変わりました。比較的オーソドックスな出題が多く、取り組みやすかったのですが、(イ)古地図と現在の地形図を比較しながら歴史的知識を問う形式は新しいものでした。
- 問4：リードとなっている年表のテーマが「野球に関するできごと」でしたが、出題の内容は一般的な近現代の歴史でした。(イ)日本の領土の拡大を示した地図とその契機となった戦争や条約を結びつける出題で、正しい知識を必要としました。(エ)野球選手の団体交渉に関する出題で、労働者の権利やその歴史に関する知識を必要とする、公民分野との融合問題でした。
- 問5：経済の三主体と金融機関の循環図をリードに、経済分野から出題されました。(ウ)為替相場の変動の意味、変動が起きる原因、変動が貿易へに与える影響を問う出題で、難しい問題でした。
- 問6：SDGsをテーマに、地理分野と公民分野から出題されました。(エ)最高裁判所の地位と役割を問う出題でした。「三回まで、最高裁判所で裁判を受けられる」の誤りに気づく知識の正確さが必要でした。
- 問7：南アジアをテーマに、地・歴・公の各分野から出題されました。(イ)インドがサンフランシスコ講和会議に参加しなかったことを知らない受験生は多いでしょう。資料を読み取る力と知識が必要でした。